

事業所名 グループホーム町屋

運 営 推 進 会 議 開 催 報 告 書

開催日時 2022年6月27日（月）	
参 加 者（意見照会）	議 題
利用者 0名	① 行事報告 ② 行事予定 ③ 身体拘束適正化検討委員会 ④ 意見照会
利用者家族 0名	
地域住民の代表者 0名	
市職員 1名	
地域包括支援センター職員 1名	
事業所 0名	
会 議 録	
<p>2022年6月27日に行う予定でしたが、コロナウィルス感染拡大防止により開催を中止しました。今年度開催分も意見照会にて行う予定ですので、ご協力をお願い致します。</p> <p>① 行事報告</p> <p>1号館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月11日 母の日のイベントがありました。おやつに、玉子・ハム・フルーツサンドをお召し上がり頂きました。職員からは、メッセージカードをプレゼントさせて頂きました。 ・5月27日 避難訓練がありました。今回は、14時に地震が発生して、脱衣場から火災が発生したと想定して行いました。避難時間は6分47秒にて、玄関外まで避難できました。今回の反省として、最終点呼時に利用者様の数を間違えた、動線の確保を忘れてしまい途中で気がついた、スタッフ同士の声掛けが不十分であった、等がありました。 ・6月15日 午前中に、いなり寿司作りをしました。利用者様も、楽しそうに、いなり寿司作りをお楽しみ頂きました。昼食時に、作って頂いた、いなり寿司と一緒に、天ぷらそばを、お召し上がり頂きました。 <p>2号館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月10日 母の日のイベントがありました。おやつに、プリンアラモードをお召し上がり頂きました。職員からは、メッセージカードをプレゼントさせて頂きました。 ・5月30日 避難訓練がありました。今回は、14時に地震が発生して、脱衣場から火災が発生したと想定して行いました。避難時間は7分27秒にて、東屋まで避難できました。今回の反省として、車いすをもっと有効に使用して誘導出来たら、スタッフ同士の声掛けが、普段から重要だと思った。お昼寝をしている利用者様を起こしに行ったら、不穩にさせてしまい、誘導まで時間が掛かってしまった。（声掛けの仕方を工夫したいと思った）等がありました。 	

- 6月13日 午前中に、いなり寿司作りをしました。利用者様も、楽しそうに、いなり寿司作りをお楽しみ頂きました。昼食時に、作って頂いた、いなり寿司と一緒に、天ぷらうどんを、お召し上がり頂きました。
- 6月15日 おやつ時に、誕生日会を行いました。わらび餅パフェをお召し上がり頂きました。皆さんで、誕生日の方のお祝いをさせて頂きました。

② 行事予定

1号館、2号館

7月 七夕、土用の丑

8月 そうめん

③ 身体拘束適正化検討委員会…「帰宅願望による身体拘束」について

- 1 帰宅願望とは、認知症の心理的症状・行動症状のひとつです。
 具体的には「帰りたい」と頻回に訴えがあり、実際に家や施設を出て行くこととすることです。帰りたいという気持ちは、自宅だけに向くものではなく、生まれ育った故郷や親しい家族や兄弟の家の場合もあります。また、「帰りたい」ことは、悪い事ではないと思います。帰宅したいと思うことは、誰でも抱く感情です。そのため、帰宅願望自体は悪いものではありません。
 人は過ごしている空間に居場所がないと感じたり、不安になったりすると、その場を離れて自分の居心地の良いところへ行きたいと思うことがあります。帰りたいという願望や実際に外へ出ていこうとする行動には、その方なりの理由があるのです。
- 2 帰宅願望の原因は、帰りたいという背景には不安や焦り、孤独感といった心理的要因があります。帰宅願望の理由は人によりさまざまですが、共通する点は「現状への不安、心配があること」です。

◆ 認知症の症状

認知症の中心的な症状には、記憶障害、見当識障害や理解力・判断力の低下が見られます。この症状が進行すると、知っている場所や身近な人でさえ分からなくなってしまうことがあります。

自分の家に居るのに、「家ではないところに連れてこられた」と思い、家族を「他人だ」と認識してしまう事があります。知らない環境に身を置くことは、人を不安にさせます。自分のいる時間や場所が把握できない利用者様は、孤独やストレスを感じるようになります。

◆ 環境の要因

環境が「しっくりこない」と、人は不安を抱きやすくなります。帰宅願望のある方には、自然と過ごせる環境や居心地がいいと思える場所を用意することが大切です。

環境は、単に空間だけではなく人間関係も含みます。仲が悪かったり、話が合わない人と距離を置くだけでも帰宅願望が減少することもあります。

居室内に、その方がくつろげるような家族の写真や本人のなじみのものを飾ることも良いと思います。本人はここが自分の居場所だと認識し、不安や孤独を感じなくなるような環境作りも考えて行っています。

◆ 夕暮れ症候群の影響

認知症の方は、外が薄暗くなると落ち着かなくなり、不安を表出しやすいといわれます。夕方に認知症の方が「家に帰る」と訴えることを、夕暮れ症候群と呼びます。私たちも夜になれば仕事や学校から帰宅するように、自分の家ではないと感じている方は、変える必要があると考えるようです。

認知症の見当識障害によって、時間感覚が数十年前になっている方は、引っ越したことや施設に入所していることを認識しづらいため、夕暮れ症候群があらわれやすいとされています。また、遠くから嫁いで来た方も、自分の故郷に帰るといった帰宅願望が出やすいとされています。

◆ 認知症の症状によらず、他の願望があるもの

帰宅願望のすべてが、認知症の中核症状である記憶障害や見当識障害などを原因として引き起こされているわけではありません。認知症の方でも、認知機能の低下以外の理由で家に帰りたくなることもあるとされています。

眠い、お腹がすいた、のどが渴いた、便秘などといった生理的欲求が満たされないことをきっかけに、なんとなく不安な気持ちを抱き、それが帰宅

願望としてあらわれる事があります。その場合、不調の原因を探ってそれを取り除くケアを行うことによって落ち着いて過ごすことができる様に、取り組んでいます。

- 3 帰宅願望が原因で起こる可能性がある、身体拘束は次のようなものがあります。帰宅願望があり、外に出てしまう事がある場合、部屋から出られない様に、鍵をかけて出られない様にする事は、身体拘束になります。また、動けない様にベッドに縛ったりする事も身体拘束になります。では、この身体拘束を行わない、町屋でのケアと対応について、ご説明させていただきます。

◆ 環境を整える

大勢の人がいる環境よりも、他人の視線を気にせずゆっくりとくつろげる空間を用意することで落ち着くこともあります。椅子の向きをリビングの大勢の利用者の方に向けるのではなく、窓の景色が見える方向に調整するだけでも、見える景色が変化し落ち着いた空間へと変わるかもしれません。

また、名前をテーブルや部屋の入口のわかりやすい場所に提示して、「ここが居場所である」と認識しやすくしています。このような本人の居場所づくりを意識した環境調整によって、帰宅願望を減少出来たらと思います。

◆ 間違っても否定しない

日常では、私たちは会話の相手が事実と異なることを話していたら、間違いを指摘し、説明することで、理解してもらおうとします。しかし、認知症の方に間違いを指摘するような声掛けは、混乱を強めてしまう場合があるので注意が必要です。

「仕事が終わったからそろそろ帰らないと」と話す入居者に「仕事なんてしていませんよ。ここにいてください」と完全に否定してしまうと、混乱が強くなる恐れがあります。

本人の仕事を終えたという言葉にねぎらいを表して、「ありがとうございました。お疲れだと思うので、お茶を飲んでゆっくり休んでください」のような、納得して頂けるような、声掛けが出来ればと思います。

◆ 何か集中できる作業を探す

人は暇なときに余計なことを考えてしまいがちですが、何かに集中しているときには時間を忘れてしまうものです。認知症の方にも同じことが言えます。帰宅願望が出ているときに他のことに誘っても効果がないこともあります。帰宅願望が出そうな時の、初期対応としてレクリエーションなどの活動に誘ってみる気分転換を図る事は良いかと思えます。

4 まとめ

まずは、個々の利用者様の表情の変化に、注意する事が必要だと思えます。不安になる前に、初期対応をする事で、帰宅願望が少なくなる事もあります。対応を行っていても、帰宅願望が出てしまう事もあります。帰宅願望がある時には、説得をせず、納得をしてもらえるような声掛けを考え、行っています。外を散歩、車でのドライブをして、気分転換を図る事も、良いと思えます。また、鍵に関してですが、町屋では居室には鍵はありません。窓は防犯上、鍵はありますが、利用者様が自分で開け閉め出来るものになっています。併せて、声掛けにおいても、スピーチロック（言葉での身体拘束）にならない様な、声掛けを今後も行っていきます。

以上の、対応にて、身体拘束を行わず、帰宅願望の対応を行っています。

④ 意見照会

【市職員様】

◇行事について

避難訓練について、1号館、2号館ともに、反省点として、「スタッフ同士の声掛けが不十分であった。」とありました。

スタッフ同士の情報共有等は、とても重要だと思えます。

次回の避難訓練で今回の反省が生かされると良いと思います。

- ◆ご意見ありがとうございます。日々の業務の中でも、声掛けは行っています。今回のような、避難訓練や突発的に起こりえる急変時に対しての日頃からの備え、また各自の声掛けの大切さ、不十分さが感じられたと意見があり、良い避難訓練だったと思います。

◇身体拘束適正化検討委員会について

グループホーム町屋における、具体的な“帰宅願望”の傾向と対応を教えてください。

- ◆ご意見ありがとうございます。グループホーム町屋でも、帰宅願望を訴えられる利用者様がみえます。帰宅願望の傾向は、「家に帰る（帰りたい）」が一番多くあります。

帰宅願望の対応と致しまして、職員が利用者様のお話を伺い、職員が説得するのではなく納得して頂く事や、川沿いを散歩、車でドライブ、2号館（1号館）へ遊びに行く等の気分転換を図る事で、帰宅願望が落ち着く時もあります。

今後も、その利用者様にあった対応が出来るように日々のケアに取り組んでいきます。

【地域包括支援センター職員様】

◇お世話になります。

今後も感染予防に留意しながら、利用者の方々の支援を継続していければと思います。

今後とも、よろしくお願い致します。

- ◆いつもお世話になっております。今後も、感染予防、感染対策をしっかりと行って、日々のケアに取り組んで行きます。

今後とも宜しくお願い致します。